

地域おこしへ 薬草活用提案

飛騨で催し
きょうまで

地域で豊富な薬草を

まちづくりを生かす催し「飛騨市薬草フェスティバル」が十四日、同市古川町の市文化交流センターなどで二日間の日程で始まった。初日は専門家の講演や、薬草を使ったスイーツコンテストなどが開かれた。

市内では昨年五月六月に「全国薬草シンポジウム」を開催。地域おこしの機運を高めようと、市民有志によるNPO法人「薬草で飛騨を元気にする会」を中心とする実行委が企画した。

この日は崇城大薬学部（熊本市）の特任教授・村上光太郎さんが講演。クズ、オオバコなど身近にある薬草を使った菓子、かき揚げなどのメニューを紹介し「薬草はミネラル豊富で、おいしく体に取り入れることで元気になれる」と話した。

市民や事業者が薬草の粉末を練り込むなどして作ったメナモミのクッキー、オオバコのあげまんじゅうなど十品も紹介され、来場者が試食した。

十五日は、町中心部で薬草をテーマにしたスタンプリーなどの催しがある。（島将之



身近にある薬草の効能や食べ方を紹介する村上さん
飛騨市古川町で